

CASE STUDY

VPSX[®]でIBM System iの 遠隔地印刷を大幅にコストダウン

高い技術力と業界最先端の情報管理システム活用によりスピーディで高品質なサービスを提供する日本有数の自動販売機メンテナンス会社はVPSXソリューションを導入してIBM System iの遠隔地印刷コストを大幅に削減しました。



Central Japan
Technoservice

組織

セントラル ジャパン テクノサービス株式会社（以下CJT）はコカ・コーラ社製品の製造・販売を手がけるコカ・コーラ セントラル ジャパン株式会社のグループ会社として、自動販売機器などの総合メンテナンス事業を展開。世界200カ国の人々に愛されるコカ・コーラ社製品を常に最良の状態でお届けすべく、自動販売機をはじめとする販売機器類の保守・修理・整備・設置などをおこなっています。同社のサービス拠点は、愛知・岐阜・三重・神奈川・山梨・静岡の6県にまたがっています。

環境

名古屋市の本社にはIBM System iが基幹業務システムとして稼働しています。VPNで接続された6県、23か所のサービス拠点には請求明細書、種々の管理帳票、部品在庫表、衛生品質管理報告書などの印刷が行われます。そのため各拠点には5250プリンタセッション専用のWindowsサーバまたはWindows PCが設置されており、そこから全拠点合計約



40台の専用レーザープリンタに印刷が行われていました。

お客様の課題

CJTの情報システム部門では高まる経営陣からの要請を受けてITコストの削減に取り組んできました。そのうち各拠点への印刷については専用レーザープリンタのランニングコストやそのための全拠点に分散配置されている5250プリンタセッション専用のWindowsシステムのコストや管理のしにくさなどが問題視されました。一方、各拠点には複写機として各社の複合機が導入済みであったために、CJTはそれらをより有効に活用できないかと考えました。

VPSX導入の効果

無駄なプリンタを整理統合するためにCJTの情報システムチームはアウトプットの集中管理と複合機やプリンタへの信頼性の高い文書配信に定評あるVPSXアウトプットサーバソリューションを採用しました。予備も含めて合計3台のVPSX搭載のWindowsサーバが本社に導入され、代わりに、各拠点に置かれていた合計23台の5250プリンタセッション専用のWindowsサーバまたはPCはすべて撤去され、また合計約40台の専用のレーザープリンタも一部を除いて撤去されました。従来の印刷物はすべてSystem i上のアプリケーションを大きく変更することなくネットワークを通して直接、各拠点の複合機に印刷することができるようになりました。また従来、事前印刷用紙を使う文書が一つありましたが、VPSXソリューションでコマンドによる罫線の印刷も可能であったためその機能を生かして白紙への印刷に切り替えました。一方、今回、VPSX搭載のために新たに本社に置かれた3台のWindowsサーバは従来、各拠点で5250プリンタセッション用に設置されていたものを活用したために、ハードウェアの追加コストは生じませんでした。全センターのプリンタセッション用の5250エミュレーションサーバとPCを廃止したこと、各センターでの印刷をMFPに統合したこと、また事前印刷用紙を廃止したことによりCJTはプリンティングの年間TCOの約17%を削減することに成功しました。VPSXソリューションの導入を担当されたCJTの情報システムチームの長岡知胆氏（次ページ写真右）は次のように語っています。

